

## 3学期の授業づくりに向けて パート3

12月12日に発行した「南会津教育事務所学校教育課だより」では、「3学期の授業づくりに向けて」として、「パート1：授業づくりの視点」や「パート2：授業者の発問とその後の対応・アウトプットの重要性」について紹介しました。

本号は、パート3として、「南会津域内各小中学校の先生方の実践事例」を紹介します。

### 児童生徒の“つまずき”を生かした事例



小学校外国語の授業中、品物を注文する際の店員と客のやりとりをペアで練習していた時のことです。教師はまず、学級全体の学習の様子を観察していました。すると教師は、あるペアの練習が進んでいない状態であることを見取り、そのペアの様子や会話を注視していました。

A男：「金額は1,000円以内と決まっているけど、3つ合わせた金額を聞くと1,000円を超えちゃうよ…。1,000円を超える時は、どう話せばいいのかな？」

B子：「う～ん。習っていないから分からないよ。」

そこで教師は、その困り感（つまずき）を全体に紹介しました。すると、周りの子供たちから様々な考えが出てきました。

C男：「まとめて3つの金額を聞くのではなくて、1つずつの金額を聞くようにしてみたら？」

D子：「なるほど！その考え方、いいね！」

教師：「ついでに、本物のお店で会話する時に大事なことは？」

子供たち：「最初のあいさつをしていなかったね」、「声の大きさや速さを気を付けていなかった」、「相手の顔を見ることも大事だったね」、「表情も大事だよ」……

など、今までの学習を想起していく姿が見られました。つまずきから学びを広げ、深めていくために大変参考となる教師の関わりでした。

### 児童生徒の“つぶやき”や“反応”を生かした事例

教師の発問や友だちの発言に対し、子供たちから「つぶやき」が表出する授業を重視している先生方が増えてきています。「つまずき」や「うなずき」などの反応を示しながら聞き子供を育成することは、子供の「気付き」や「新たな発見」などを基に全体の学びを深める授業づくりにつながるだけでなく、「納得した」、「納得できない」などの授業の理解度を確認しながら授業を展開していくことにもつながっていきます。ある中学校の授業中、教師が生徒に対し、次のような問い返しや指導をしていましたので参考にしてください。

A男：「あ～。そういうことか」

教師：「A男さんの『あ～』って、何かに気付いた『あ～』だね。みんなは、何に気付いた『あ～』だと思う？」

また、違う場面では、以下のような関わりをしていました。

B子：（困っている感じで首をかしげている）

教師：「B子さんは何かに困ってそうだね？頷いたり、首をかしげたりすることって、とてもよい学び方なんだよ」

この教師は、A男さんのつぶやきに隠された意味を全員に考えさせる問い返しをしたり、B子さんの困り感に寄り添い、その学び方のよさを価値付けるとともに、「分からない」ことをそのままにしないことの大切さを全体に伝えていました。

## 児童生徒の“聞く力”を育む事例

ある学校を訪問した際、「南会津『自ら学ぶ子供の育成リーフレット 8つのポイント』の中から、自己課題としてポイント⑤を意識して授業に臨んでいます」と話してくださった先生がいました。ポイント⑤に示している内容は「子供の聞き合う力を高める」ために、子供の発言を教師がオウム返しのように繰り返さないということです。

A男:「わたしは、〇〇が〇〇だから、〇〇だと思います」

教師:「A男さんの発言で大事だと思うことは何か?」

この教師は、「〇〇だから、〇〇なんだね」というオウム返しをせず、上記のような問い返しを行い、聞くことへの必要感をもたせるだけでなく、聞く力も高めていくことにもつなげていました。毎回のよう教師が子供の発言を復唱していると、聞かなくても教師がきちんと言ってくれるため、友だちの意見を聞かずに、聞き取りやすい教師の言葉を聞けばよいという学び方に陥ることは自然なことです。聞く力を高めていくことは、子供同士の話し合いの力を高めていくことにつながっていくことを実践している好事例でした。

## 冬期間こそ、健康教育の推進を

福島県における肥満傾向にある児童生徒の出現率は非常に高く、健康教育は本県及び南会津域内の喫緊の大きな課題となっています。この課題を解決していくためのキーワードは「自己マネジメント能力の育成」です。これは、肥満傾向にある児童生徒を対象とした指導だけを意味するものではなく、全ての児童生徒に育成すべき能力です。人生100年時代が到来している今、生涯に渡って健康で豊かなスポーツライフを過ごすための教育の推進が求められています。

そのためには、体育科・保健体育科の授業で行っている取組や内容が、自他の心身の健康に役立っていることと関連させながら学ばせていくことが重要です。

### 「なわとびコンテスト！」への参加をご検討ください

冬場の体力づくり、学級づくり、絆づくり、目標づくりの一つとして、参加をご検討ください。現在のところ、県内の参加校は例年よりも少ない状況です。特に、中学生は部活動単位での参加が可能ですので、準備運動やレクリエーションの一つとして取り入れてみてはいかがでしょうか。県内各校の参加状況や参加校の記録、ルール等はWeb上にアップされていますので、詳しくは「みんなで跳ぼう！なわとびコンテスト」で検索してください。



カテゴリーは30部門

各カテゴリーで優勝したチームを輩出した学校の全校生にプレゼントが贈られます。

#### 実施種目

- ★8の字跳び
- ★個人種目
  - ・前回し跳び
  - ・後ろ回し跳び
  - ・二重跳び
- ★ペア種目
  - ・2in1
  - ・連鎖跳び

#### 実施期間

1月31日(水)まで

#### 対象者

小学生～中学生  
※中学生は、部活動単位での参加が可能です。

福島県教育庁南会津教育事務所 学校教育課

TEL 0241-62-5255 HP <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70510a/>

